

Centimetres

# KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

**Kodak**  
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



5  
2843  
1





特  
利5  
2.849  
/

利 5  
2849  
14

イ  
中  
2



尾陽名古屋

之禄子七申

初陽

端分朝役

え子の雪乃

耳の垢

如

る



露川

素

雲

一歌二

管れ思くは路や口初尾

雲木

若くは来くはのりる古畑露川

る木履尼や法通の 凝解く 素鏡

一歌三

心月も世もよみ 山あれ松

素鏡

心月も世もよみ 瓦木

小町の若さ出

心月も世もよみ 露川

心月も世もよみ 且柳

恵白やうる摺るる鏡餅

振る勢好きお仕儀後の若原芳

清雪のうら階つる部も 三亭

全

染栴のうら階つる部も 同

換地城志の如國の鋤功り研

茶の代を律候も至し 東芳

全

の心志里や栴も若くや太ら目 同

えまの向んく先唱の三亭

吸おのりくこやう若も 三亭

ろえ

初馬

湖雀

菖園や三百貫り平りり

神よし神よし神よし神よし

神の智の法令城堀出し

同

全

猿猴も空かてんよ日の印

襟垢はぬき乃香丸

これのそり伝存人

同

松あり

全

鞍かきつ草金馬を伴物

穂もかほ額縁は

車戸は神雷と思ひ行て

おと川付三袋

鶏旦

捨石

白雪の石二や日か若鏡解

云地おのむきし日月松竹

雪もがし地めし人瀛濠

中二

全

うらまゝしもの孔雀や神日影

窓の隙し他のまは捨石

紳武士の竜柄

中三

全

寺のしき道新宮も家の内

自知山如く包のきめ芽瀛濠

言外は衣入し

捨石

中四

初禮者

瀋水

お振馬取黒紙比新

従者張臂二玉身

盥之盥<sup>トク</sup>屠蘇白敬

一紙禮札持衆春

神市

吟水

吟やお川笑物の三番三

猶う出く神笑しるを哉 孤千

は川は子銘室川や童功一凡

くくく山之山や童功羽童

山依子神童しとや童童子竹

高人の體形起守日在哉 且栖

おこや川付は世

一文く賞神志よりはふふ味夾始

神市お地ふふ守以目お賞御在

神市お九脚り純城童<sup>トク</sup>や童 控石

神市や雨と臨お足風の<sup>トク</sup>羅<sup>トク</sup>千夾

賞神お舌出ふお目の笑<sup>トク</sup>哉立枝

賞神お赤味贈付くは摺木 林向

賞神お免子雲霞<sup>トク</sup>あふ子枝お哉 似言

賞神お免子七色提てて序て哉 可樂

賞神お因心知城火打石 山

賞神おや終も欲深大眼神 申春

賞神お他におく出く又<sup>トク</sup>迷<sup>トク</sup> 朝雀

息のそよ川吐や一<sup>トク</sup>笑<sup>トク</sup> 菊三

ちん

あまの帝

杜旭

古き時やまをいそぐもよるも

少くももういそぐも暖かき

東凡

魏山

造化の跡や燕のえを結く

随栞

又

全

会へく白鳥と母鳥の古き哉

あめんく見やる日只棧嫌然

杜旭

あきの浪船も我が

杜旭

魏山

又

全

あまのつらさうしんく慶うれ

あまの儀て掬くあまの

随栞

味あまの白毛のせう

杜旭

社旭

かた川付五葉

あまの

推之

松囃應田揃

あまのつらさうしんく梅の雪

寸白城野州の雪やあまの

杜旭

八景備湘春雨

水也

あまのつらさうしんく掃く海の上

は永日の子の雪の

杜旭

あまのつらさうしんく

杜旭

洞庭魄月

全

あまのつらさうしんく

あまのつらさうしんく生乃白梅

杜旭

あまのつらさうしんく障子の穴

杜旭

あまの

山市賣抄

僂市

正月の市は先有や志比次は是

内くく名録おくは等 都柙

かゝるの綿帽子は中と吹揚て 十竹

遠寺神歌

全

ゆくは若翁もお存極はれり

先焼神ハ電衣 遷宮立枝

去父入の翁も踊も我修も 丸白

志浦祭初

全

舟おれ先や三川お積く和志浦

駒多敷おあつ町の能く少也

吹むの棟梁逢八袖も丸 於柙

かゝる川付お紫

漁村神日

都柙

打寄は浪や神日の下まぶら

の玉たつとま奈名鈴 僂市

付くくお私もや 出替り 山

江天残雪

全

江の雪や竹保は君れ子氷の鈴

内懐もあゝお城どく 釣雀

田楽の味はの匂も 由らん 立枝

平砂黄香

全

管や平砂お振る 堀離丸坊

尾く漕や吹船の平お油十竹

庭ぬるお空の鶴も村も ちる也

お空の鶴も



のめ

三

平のまき日尾七好長  
ほせのふのそとく  
襟好の侍物かろ云々  
出物

同

全

解雪の  
あまむの  
門松の猫の  
誹借れ猶うま飽ハ  
日永

同

全

息ぬぐ合ハ喰きり花の  
これぐやめ七好  
暖かにもは戸  
室吹

菊三

かこや川付七地  
あまき

吟水

か橋や傍者ちうりま柳  
清代  
雪のありに位成申り

陽替

同

湖の神日や波まき人音  
長共の舞み流る節東風  
かよ竹の志川一迄

陰

同

鶯や平ゆみ杜娘門乃松  
一日百巻供ハ永キ日一凡  
まきまよや歌ハ中言と  
中夜

子思まゝ

林月

く川梅の枝く糸やて約白  
おらう海風のまぶる言言の里  
見くらげやういほく  
表のれりく

三春

同

えりやきくけうんも山林  
梅も盛んう食のまき森林月  
鎌川の奉用まむ  
まきまむて 立枝

東君

同

いしきくぬんこむおまき酒の若  
貝の肩も背まおあ海山 仁吉  
あの空を捨て入まき  
やまむぬまの

あこや川付の葉  
子思まゝ

固口

いふく見よ山川もねま園の  
徳の歩やれれ能ま受ま受 夢中  
春ぬ日や上戸仲後の  
けうま

地之二

全

写士の絵おの枝かきせ神日記  
咄くくまぬまの連ケ口  
まきまむ味か  
まきまむ

地之三

全

子思まゝ子を洗く  
席下城まよ人の系ゆま  
燕も念はぬま油揚げくケ口

若くは名の付も 有るん 赤の老神 焼く火まき 正月に照 一に杯 早の空 誰 不識 巷 不識	洞翠	誰
---	----	---

何氏や 録志 屋サ蘇 跡のあ川 雑 志や一 誰 不識 洞翠	市人 誰 不識 洞翠
---	---------------------

かこり川付九葉

川越や 盆 東 不識 誰 洞翠	偶 洞翠 誰 不識
--------------------------------	--------------------

果の  
 ういれく指  
 市  
 洞翠

同  
 誰  
 洞翠

ふ識  
 誰  
 洞翠

山椒且

沢水

初鶯や大弓の門乃蝶つがむ

空のふが里も瓦詰くわむ如瓶

幾春の迷哥や人のまふ似 あま

二

えまか ゲホリ 額隠るるるるる

小松の下枝かひか福神 沢水

庭子の干麩と あま 一の如瓶

三

一字の辨もあつて  
あま 我あ あま

け あま 一 あま 満 あま け あま

河 あま 松 あま 坂 あま 小 あま 月 あま 戸 あま 梅 あま 山 あま の あま

雪 あま の あま あ あま り あま 大 あま 令 あま と あま 次 あま あり

晴出

か あま 乙 あま 川 あま 付 あま 拾 あま 葉 あま

山椒且

僧

同隆

ふ あま の あま 梅 あま 塗 あま 砥 あま 石 あま 掛 あま る あま 氣 あま 色 あま 哉

余 あま 竟 あま せん 雀 あま の あま 口 あま れ あま け あま け あま け あま  
人 あま の あま 古 あま 夕 あま 哉 あま け あま け あま け あま け あま け あま  
つ あま 婦 あま と あま 愚 あま 痴 あま の あま 身 あま け あま け あま け あま

あま陽

僧

直全

あ あま り あま 大 あま 簾 あま の あま 目 あま や あま 花 あま の あま 腰

一 あま 掃 あま 空 あま あ あま り あま け あま け あま け あま け あま け あま け あま

あ あま り あま 繩 あま の あま 籠 あま 城 あま 婦 あま 人 あま 素 あま 後

あまの二

同

あ あま り あま の あま 化 あま 粧 あま 鏡 あま や あま 油 あま の あま 影

あ あま り あま の あま 長 あま 閑 あま の あま 舞 あま 衣 あま 襟 あま 花 あま 並 あま 合

あ あま り あま の あま 大 あま 失 あま 酒 あま と あま 味 あま の あま 味 あま 味 あま 味 あま

快也

花の三

佛負海 吾克んたし 快長

井露日和りゆく 菅 素徳

茶の丸乃成置る言の 舌出 直全

山好そら

快長

錐賣のぶ人取やの音

多ぬ茶ハ蛇の目と吞や 素徳

山蔵三好

直全

長谷寺や網を又糸子籠

余如く 唯成川餅搦者 周隆

平路の壁あゝの 素徳

かき川竹一葉

林鏡

斗先う者の仕付解りく船の音

雀あ糸をう屋の音 友次

海山もと並り氣や 江舟

日一久

全

つ松の透りありし 鬼瓦

正月松の廣を 圃干 井鏡

春の凡雇の借も 振出 左次

日一久

全

柄較着に 七ゆ 三ツ日

花はうま 何ふ 糸 沖の言 江舟

常も 尾餅搦ん 雪解 林鏡

独吹三曲

尚計

草子母や丁な二尺の垣子深

かまのわらひを寝る草子

学もおもしろ草子

全

松亭子

芦沢

河津のつれ後の凡成はり

や〜豊ある園の山月

い富の免つ〜

全

孫峯

美名の免ぐら井戸車

下〜七の喰ふ餅の朝日

ふがあ〜の物の

松崎

かえり付り二葉

全

巴靜

阿松老北のかま〜や稲草山

銘子や路〜とくちる若比 同

穉船の雪〜海風乃湖雀

全

田山

大猪の〜あやからあはれ

宮を免〜と路〜

梅枝艶〜次は

松崎

全

松月

か〜くまのあまを〜心ゆや松待

誰う木末子〜ふが〜

万葉

よまの免〜山家〜中解て

ら

全

五年 椿子

門松も笑つて花もや海やの松  
大なる其の千鶴の雲に 朝雀  
畑打春つつか公晴 目下 霞川

之口川付

伍才

其の長き途も別や代々の春

語

廟子や法安宅の松は慶哉 推之  
三國一つて度も好やと釣の松 松屋  
深か〜と云ふもさう梅の事 右松  
貴も雲の苦思哉 経てやと塔の 涼竹  
足

ふとや川付十三葉

山出りや一葉の菊も河の松川月  
行進〜と云ふも似たり松川月  
松川や暖火〜吹く春松川下  
おもしろ〜と云ふも似たり松川月  
神代も好もや〜と云ふも似たり松川月

思ふ代々のつらも多しぬに〜通〜松川月  
赤あ〜と云ふも似たり松川月

桑掛や油赤塔の松待り心友

祝

左巻や笑つてか〜と云ふも似たり松川月

祝

齒固や仁助も猫もあゝ松川月  
判〜と云ふも似たり松川月  
同

蓬草花や借保るむの油尾 稀白

くまや又な櫃も樽もむのま白 多日長男

大塚も梅のまやう花のま万声

蓬草花や新若夫時久くむのま日三更 春又

箕く斗は合や物田のむのま 糸文

蓬草花やいびく下の人ぬま 人山

蓬草花今智恵のまのま 砂川

正月や室とごころ餅ら 松女

ふのこ目くえぬむもあり業名 露露

今の御借あはり

平假名也 よ 久くむのま 景芳

おらや川付のま

山女と表

東推

ゆき東にや池の面れ手斧打

鉄大羽々 縁の下の知 素流

雲雀鳴 唇己あう子 齋川

とんがよりも月ハ物子 推

古所柿の柄も心子 流

おまやけのま子 川

立表

水杖

蓬草花の中やうもく子界此流

ゆき葉乃 浦く出る 餅神

山畑の鳴響れ 自他也



子思の書

七春

幸若のやうなたおや入子針

朝日子白異城のあはれ七春の露川

美しき子種のおせや指の東推

巢のちり鳥のあはれ鳴 春

油のぬるま子思のまねの月 同

小便の舟ハキホウシ蓮花の塵 推

此のまじりの川はあはれ 只

・ 神陽

把赤

清らかなるは離世のやまのあはれ

心でまき刀で録乃神神

ふとれくたのく録

糸ゆふ子

かきや川かきや川のあはれ

あらさる

新神楽のほの古慶や貝屋

流人たる侍の白雲の宿独下

久の念シヨウの次ハる山操 全

秘のあきまハ頼朝の筋 一秀

昼の月のあはれトキのまね 全

時折ぬシヨウの秋のト凡 露川

立書

独ト

美水の石盤やまねの海

ふもふもシヨウのまねもふ代 一秀

長閑さの掃白シヨウのまね 嘉祝

あはれ

陽春表

且拙

當に腰あつてや賈長房  
日めいよのまゆとむやまゆ  
清雪の一角はあけも能く同  
何のあゝ結う百燈の結  
有水の親あつて村あつて  
おぼけ化あつて秋  
千

山草

孤千

かんぢんぢんぢんぢんぢん

むのち

山草

雪雪あかぢぬ初日の芽  
香水

東の欠油部

おこや川付の油部

了像 正

深田

味丸

正月の床や白粉の鏡

小田乃蛙やあつて干鼻

えんげや伏見池 細石

山草

千三

拙味

同

正もぬいして海や雪の家

因まゝくやけき子の丁北

けさ雪大坂南く写 水尺

水邊 千三 水尺

正月の子細も折や流川

咲むくとせと梅の心すく味凡

長用サカ錠のおまじころも 干鼻

蒸成 千四 同

正しく擲りたりかや擲り餅

牛も袖も猫もあはれく水尺

氣きこれに作はる北煮

むりん

食部 千五 同

正月や春の朝のきより

まゝ家引の八奥の赤負ケ酒尺

管の鳴るおねの来し水味凡

ちんや川付ナ七代お

水尺

水尺

清きこれゆき坊るの雲お代

名うとまんとし茶屯の味如朴

新月の牙つ草写のいおな 魯九

秋のあらしやや朝土まる 干鼻

けりくと目撃するは三葡萄細石

三人杖持乃りと三人 杖下

言山のノ海ハこトよクいハきコうノみナい 小鼻

都邊 小油 さんさん 味凡

はばりも半分ませり市の塩味凡

一寸もあはれ急る音のき 細石

初年や輪装袋あらし 干鼻

人の音

神楽之紳

青陽

国驩

下駟の意より雪踏のゆくむの意  
 横雲の川月も付来毛の  
 大甲もそのあう序よの  
 かしおくつあううの  
 元さくまきまの  
 明くまきまの  
 大んかすくと空の笑や  
 やう徳神  
 やう立や打あまの  
 そのくもよし内印の意

おこり川付十六歌

神の意の少多の情り

采女

余知足結ハ紳の人也

紳織之郷

神門

是柳

くら花の義の界の轉や日の

自由の甲の白の音の

常も末のゆるい

其二

くらむの交梅の短尺の子の

自由の義の城のゆるい

神の猫もあはるる

其三

窓竹

かきくひのたし戸の度々舞下り

自中より曲る草子外の思ひ 餅 洗林

表野の舞も思ふれぬ 是柳

其四

洗林

かきくひのたし戸の度々舞下り

自由より実の近き思ひ 左木

あけの儘も思ふれぬ 窓竹

其五

左木

かきくひのたし戸の度々舞下り

自由より馬は追ひぬ 窓竹

東に吹く風も思ふれぬ 鴉小

かきくひのたし戸の度々舞下り

其六

鴉小

かきくひのたし戸の度々舞下り

自由より馬は追ひぬ 窓竹

東に吹く風も思ふれぬ 鴉小

かきくひのたし戸の度々舞下り

自由より馬は追ひぬ 窓竹

東に吹く風も思ふれぬ 鴉小

かきくひのたし戸の度々舞下り

其七

里旭

かきくひのたし戸の度々舞下り

其八

里旭

かきくひのたし戸の度々舞下り

窓竹

春袋

岩蛙

家川の連流申かま布工

弁カ天

カ友

長岡砂のまらん弁カ下

志以以

松吟

あの朝のこしははたに

志以以頂

大甲虫

柳雪

大甲虫さくさくさくさく

浮城香まじくくく破テ 番石

浮城のちかか出さるまも里地

志ま川 蛙乃物 岩蛙

月七くや 蛙のちかこ 岩友

おこる川竹ササ

橋の白身此のろや

松吟

東に東は金合の松 石

船が茨とさる海づ 雪

又二階橋く尺八のめん 蛙

石巻の八我娘にひし 蛙

指宿も前線は耳し各地 吟

何喰はたたけはしつあ 友

誰は清波の車の釣あし 雪

踊らんや月七宵 石

茶麴のりよ茶漬をさ人よ 蛙

あのおは友あしつらも三ツ 蛙

是又よとむは笑出垣の上 友

石巻

志やれの竹のたむけ 常  
いあうらうらうらうら 内旗  
ソアソソソソソソ 内旗  
花ありの客とまほも人 内旗

兼山し郷

元日

素均

員あそや休係好のそ色 織  
濃りあそあめりや好 上戸  
そのもあかぬる 舞の酒  
山の奥山の奥と 幸遊  
花作の毎年 野山  
ありそや 江月  
白鳥

おや川付せし

知あし部

早お好

亀寄  
ト志

大黒のあそや 志  
際岸 如山

く 如山

千二

白以  
澤山

大甲と 如山  
屋 如山

しら 如山

茶のあま

る

板山 如山

又甲子や乙未得梅の権借人

あま浮きも先交たいく 伏山

ふれさ八目の法界の雲 も如 上志

威音

如山

十重船ぞくあゝぬの船や 〇 志

尖るる来 曆や年の水車 伏山

ゆきくれば 虚云も実も 〇 志

や 〇 志

早好日

坂井 包水

赤くや牛のふ圃園や 〇 志

赤くや牛のふ圃園や 〇 志

赤くや牛のふ圃園や 〇 志

おこや川付サニサ

おこや

同処

志一

おこや川付サニサ

早好日

包水

おこや川付サニサ

おこや川

大谷 巴川

おこや川付サニサ

おこや川付サニサ

おこや川付サニサ

早好日

加木屋 雪客

おこや川付サニサ

おこや川

同

おこや川付サニサ



笠寺之郊

初陽

諸高

おける宮階は入る門の松

むすむと雀も新巻の色 朴丹

新巻にやとくのおし馬のト首

めざさる

同

朴丹

ほろい内か暖くは電

賢の厚さばふりの公家ト首

よふおちる中といくと ぼろ

たふあ

さるやり竹ササ

同

ト首

吟はくらのく勢ぬ数や一通り

雨さもあるかぬ民の宮川流る

初ふくまのまの思ふ名の 朴丹

物り

建前陽

梅兄

事かぬものや丁地の茶用

お朝うけくのもえはは三節 自束

石のまじりかき同ハ念はる曾由

全

自束

破テ弓のよああやお乳の人

あけに一葉も雪の陽炎曾由

空々たるああああ 梅兄

山深きあ

ろん

全 (The whole) 曾由 (Soyu)

大いなるや花の瓦の庭ニ (Great flower garden with tiles)

庭ゆりの室もちやんぱん梅見 (Garden room also cherry blossom viewing)

か免ふもあふる自東 (Avoidance also from the east)

子豆考 (Child bean study) 江村 (Eguchi)

お空や懐く長男も膝ホ (The sky embraces the eldest son on the knee)

おの木の縁も園八ハ (The edge of the tree also garden eight)

永日み野むる朋休ニ (Forever day see wild friend rest)

この二 (These two) 浅林 (Asahara)

万葉の二人中ニ (Manyo no futatabi no hito)

幾中ニ (How many in the middle) 拍柯 (Hakuha)

半すのちハ (Half of the time) 江村 (Eguchi)

かや川付ハ (By the river) 拍柯 (Hakuha)

この三 (These three) 拍柯 (Hakuha)

衝ぬハ (Strike) 拍柯 (Hakuha)

ぬきハ (Remove) 江村 (Eguchi)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

ぬきハ (Remove) 浅林 (Asahara)

炭の火や猫も尾は揺る江村  
煤掃とは血くそ 抄字 牡丹  
煤掃やこもくそ 牡丹  
昔月をまらくそよの草如大羅  
力くまらくそよの草如大羅

一之宮郊

三才

流水

春城暮雪を巻く無地の  
新葉は白く流氷の似 榊枝

長閑さや猿も胸 細し 習井

千二

榊枝

お節も境が型伊勢のお枝

かきや川竹井立  
お天園の友成 竹玉の文 習井  
大根の輪切の梅のそ 指く 流水

千三

習井

お子口の銘や大里のゆき  
肌も黒くはくは白く 流水  
雪の拍ある 雪とや 榊枝

千四

自厚

借りてくも 聲口ぬのく 自厚

千五

流水

夕の味も 夕の味も 不永  
夕の味も 夕の味も 不永

うねげくや 土農工高 自厚  
うねげくや 土農工高 自厚

名月々ちんくしと平山平山雄勝

信州三部

岩みり

木曾福山

内お宮

還珠

まねをひらに連城生理の借松

岩みり

上流

砂宮や守ハ名戸くんを吹

己が釣川

東撰

美水も末ぐ廣く終る己が釣川

やう治橋

東津

明く雲のまの釣前やう治橋

かこり川付廿六世

己が川

令睡

近よりや垢離のゆがゆが若

二尺浦

孟珠

夕垢離のゆがゆが二尺の草男

己が田川

好珠

え日の髪や前髪の松田川

松坂

波枕

あつ坂や折る砂の借砂

雨津

孤松

お空の刷毛くかしくかしくは

津

よる

お空の津や折るを借海老

よる

白子

勇船

お花愈り船や白子の志多し

追分

橋家

追分や馬も手一掛り

四日市

久保

お花愈り船かろく雑考や

赤尾

秀陽

水鏡や赤尾の城の侍を

熱田

梅養

八鈕や侍も手一掛り花の春

津島

智能

菖園やお花かお侍

かこり川付サセ

本曾路 三物

東撰

河村も自由自在な本曾路

の川魚心れ氣の出は空還珠

鯨突海も情もあつんと流

全

同

新け所も水城海も中

早もあつた付山の空 康撰

毎の地も丸持形も空 還珠

全 伊世五宮内道宣のちよハ  
歩路と知りし由 同

宮内川も路も本曾乃あま

やまもえのこも侍空 下流

赤駒のこ徳えり 康撰

乃見

子思のち

橋家

大徳のちあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

千二

波枕

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

千三

梅巻

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

千四

秀陽

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

鳴海之部

千五

近利

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

あはれをばあはれをばあはれ

重尾

千六

門松や千一丸人の白濁の國

ふあ城少勢く山のたさう 近利

ふんやややうやうと船と 出立人 独笑

433

同

圃里のうらやうれと知り居

餅子底の終の世 白 重辰

畑打ハ鉄の拳と 立立 近利

待考

独笑

火の海とよ成階やえ手柳

云々一しお出りや海海の 重辰

雲のく二葉とふいふう 近利

からや川付共九也

あつた濃部

如月

竹ノ鼻

志士卷

飯巻の精株はふま雜草や

〜 海子林ありあふ水 雨堂

管の切角鳴ケや 橋亭 如桂

其二

同

実とさ〜 弦掛体のたのぶ

窓〜 窓〜 田打テ 烟打テ 如翠

長閑さハもろ砥ヶ像城 李残

表奥一ツ

其三

李殘

并戸塘の神看極や得り縄

穴よりふ似て穴町のま 栢五

永日のふり日る日を何事か 落白

其四

同

春立や今あ春れゆく見

坂のほおふ乃梅開く時 素堂

あ地ふらぬおの座飛も 栢五

其五

同

一穴入素よりほやゆの素

はまのちのまま素たち 如桂

東に、や江中もゆり 如桂

かこる川付廿廿

其六

如翠

つ松やあ代のハあ代れ代記

柳を地勢分ちと田お路のち也 素堂

船東にの目成やゆ方子 南堂

其七

同

百歩のゆ乃字ぬりももの春

鼓を春あ城へんほと清 素堂

あおるく〜心も素成 素堂

其八

素堂

戸障あふあ矢のあこれ 菅波

あは家看は堂の城と 菅波

煤掃やあ城くは 素堂

木の葉武光



天秤の音や天と地の音 落白  
つめくらく交和や音の音 雨堂  
瘦神の音もあはぬ 際多 如翠  
音の音はよほりぬれ 柘五  
音の音は強ぬ 柘五  
音の音はくはぬやみもよほ 菅波  
音の音はやほすの令の音 如桂  
狐穴之神

えり

疎竹

田代もは後仕あはぬ 春  
茶屋の音もあはぬ 東比、  
永日の子息かりく 清もれ

かこや川付 世世

奈古や母音

東推

春近——月自異う 付く 松餅  
近年の東の代付やぬ 出音 且柘  
音の音はやほぬ 柘もも 内り 夾始  
音の音はやほぬ 神のみ 菟 舟通  
餅実の白も子息 咲梅 舟 独ト

かこや川付 世世  
柘もも 柘の音

追うもく 柘やぬ 走の市乃 柘 春水  
煤掃の時もよほぬ 柘 湖雀  
音の音はくはぬやみもよほ 可樂  
耳の音はぬ 柘もも 柘の音 孤千  
音の音は流 柘 柘りや 柘の音 景芳

けしおの月舟ありぬそのまはゆい  
その母子の連立はそよよの月舟  
や露船也抱くそよよの月舟  
元まゝの所をや天波傳る所 若山  
煤掃や老人丸を名を五心友  
日なつて度子くこの日をりや禁赤  
軍見く矢くや師走の志ん人切七春

楳の長まは後福甚れは海甲布感の  
袋おろうさかぬ布やあはは須る  
約算して算の福とくく出山門ハ  
針以てくくして、金の下成焼  
てハ琵琶を扇枚子を提ぐ吉祥了  
世りくくくくくくくくくくく  
ほくまくくく

餅搗や大甲ののちり  
瘰 瘰 瘰

分こや川舟廿二也  
大甲のや今くくくくくくく 万声  
おまははは子おまはははのほやのこ 徹石  
水伝のむ畑くくくくく 千声  
明日見よあはは入らやのの 捨石  
たくくくくくくくくくくく 涼竹  
そのまははははははははははは 巍山  
そはははははははははははははは 随柳  
附くくくくくくくくくくく 杜旭  
赤らあはははははははははははは 一丸  
けしおの女や陣のうめ終口立枝  
あはははははははははははははは 如木  
けしおの女はははははははははは 巴静

何れかゆふまきの懐子十竹  
甲橋と化粧のつや 右松

かしのさ

よしの市

一秀

折れさして笑止れ足やの市  
誓文のお坊さうばやの市 林月  
輝成餅くまきや年の市 吟水  
三人く二徳荷や年の市 水枝  
引肌鞆が折とうの市の市 孫峯  
并戸遊成中くちやの市の市 推之  
禪のさぐり城跡をよの市の市 嘉説  
茶搦の六祖お坊く 雲川

おこや川付町三葉

歳暮書

ふ夾

何れかゆふまきの懐子の垢  
かしのさぐり城跡をよの市の市  
無くは城跡をよの市の市 世通  
かしのさぐり城跡をよの市の市 三  
松の月橋の月巻のぬきと 柳  
一のりくぬきの山坂 巴龍

餅突面

如瓶

餅搦や再拜く 谷津神

小まんが髪ハれりそのまの川

世雪まが雪の男 階く如行

如瓶

利の道と家徳の赤づ

瓶

股ぐしとやが積るの月

川

皆そむの技嫌よふ

執子

奥書

酒井正興

持主

京町三條上

京町三條上

力所



三巻末

170

